

令和元年度第1回亀岡市総合計画審議会策定部会 議事要旨録

日 時：令和元年11月18日（月） 14時00分～16時00分

場 所：亀岡市役所3階 302・303会議室

出席者：鈴木部会長、青山委員、大石委員、岸委員、坂本委員、多胡委員、山口委員
一般社団法人 亀岡市観光協会 内田事務局長、亀岡商工会議所 岸専務理事

欠席者：川勝副部会長、楠委員、内藤委員、三宅委員

議 題：1. 開 会

2. 企画管理部長あいさつ

3. 部会長選出

4. 副部会長指名

5. 議 事

(1) 計画策定の基本的な考え方について

(2) まちづくりアンケート結果について

(3) WE Bアンケート結果について

(4) 高校生アンケート結果について

(5) 市民会議からの提言書について

(6) その他

1. 開 会

2. 企画管理部長あいさつ

3. 部会長選出

事務局

- ・次第に従い、当部会長の選出を行う。
- ・亀岡市総合計画審議会条例第6条第3項に基づき、部会長は委員の互選によって定めるとされている。
- ・選出についてお諮りする。

A委員

- ・京都産業大学の鈴木委員を推薦したいと思う。亀岡市在住で、京都府の職員として勤務された経験や市民活動をされてきたことから、今回の総合計画策定に合致していると考えます。

事務局

- ・委員より推薦をいただいた。他に意見はないか。

各委員拍手承認

部会長

- ・承認いただき感謝している。京都府の職員を30年ほど勤め、市民協働に関するところでも勤めてきた。新京都府総合計画に携わったのが今から約20年前で、3年間策定にあたった。
- ・総合計画は素晴らしいものだった。全ての指針は総合計画にあると考えている。総合計画は、今後10年間で進めていくもの全てを記載するものであり、府の計画策定の際には、子ども・人材育成を最重要としていた。

- ・ 亀岡市民になり 30 年ほど経つ。子どもが帰って来るような、帰って来たくなるような素敵なまちになるよう、計画を書き込めればと思う。令和 3 年に向け、ともに考えていければと思う。どうぞよろしくお願いする。

4. 副部長指名

事務局

- ・ 副部長の選出に移る。亀岡市総合計画審議会部会設置規則第 4 条第 4 項により、副部長は委員のうちから部長が指名するとされているので、指名をお願いする。

部長

- ・ 本日欠席されているが、川勝委員にお願いしたい。

事務局

- ・ 部長の指名により川勝委員に就任いただくこととする。
- ・ 本日の議事に移る。部長に進行願う。

5. 議 事

部長

- ・ 次第に沿って進行する。
- ・ 事前に多くの資料をいただいている。読み込むことが難しい部分があったと思うが、事務局より説明いただく中で勉強も含めつつ、進めていきたい。

(1) 計画策定の基本的な考え方について

—資料No.1-1、1-2、1-3、1-4、1-5、1-6に基づき事務局説明—

部長

- ・ 総合計画を見る機会は普段ないため、頭に入りにくいこともあろうかと思う。
- ・ 委員から意見や質問等はないか。

A 委員

- ・ 2 点質問がある。資料No.1-4における総合計画の概念図のピラミッド図で、3 つ目の箱の中に「都市のすがた」として、人口フレームやエリア別土地利用の基本方針、都市構造の基本方針、ゾーン別地域振興構想が位置付けられている。
- ・ 第 4 次総合計画においては、施策の基本方針や各節に、土地利用やゾーン別地域振興構想など個別の記載はなかったと記憶している。亀岡は地域によって性格が異なるが、第 5 次総合計画において、施策の基本方針や各節の中に、土地利用・ゾーン別地域振興構想の政策が入ってくるのか、あるいは基本構想に位置付ける方針であるか。
- ・ また、ゾーンはいくつあるのかご教示願いたい。
- ・ 2 点目であるが、進行管理部会で議論されることかと思うが、以前、私が進行管理部会に属していた中では、具体的な事業・施策をチェックし、それらが進んでいるかを確認してきた。
- ・ ここでは、その方針を踏襲するのか。進行管理に際しては指標を定めるので、今回は管理しやすいとあったが、管理方法についてはどうお考えか。

事務局

- ・ゾーン別地域振興構想については、第4次総合計画では3つに分けている。①川東ゾーン②街のゾーンとして国道9号を中心に広がる市街地のゾーン③西南部ゾーンの3つである。それぞれの特徴を活かしたまちづくりを進めるものであり、振興方策を掲げている。これらは、個別施策に入り込んでくるものではなく、まちづくり全体の方向性として示している。
- ・進行管理については、第4次総合計画においても目標数値の設定及び進行管理調書上の成果指標の設定を行っている。今後進行管理部会と検討を進める必要があるが、同様の成果指標や目標数値を用いた進捗状況の把握、目標の達成度合いの管理をしていきたいと事務局では考えている。

部会長

- ・基本方針の中には、ゾーン別地域振興施策は書き込まないという理解でよろしいか。

事務局

- ・基本構想に書き込むものである。

事務局

- ・地域別構想と基本計画のリンクが分かりにくいといったご指摘は、その通りかと思うが、それらをどう基本計画に位置付けるかについても、これからの検討課題だと思っている。課題解決とともに第5次総合計画基本計画の書き込みを考えていきたい。
- ・進行管理については、第4次亀岡市総合計画の前期・後期で進行管理方法を見直しながら進めてきた。前期基本計画における進行管理では、各章の個別事業の進行管理をする形で実施したが、施策の全体像が見えず、施策全体としての進行管理・達成状況はどうなっているのかがわかりにくかった。
- ・それを踏まえ、後期基本計画の進行管理においては節ごとの進行管理に変更しており、工夫、変更をしながら進行管理を進めているところである。
- ・第5次総合計画の進行管理においても、まず基本計画の中で施策の目標をどのように設定するか、その目標に向かってどのような事業を行い、事業の効果をどう測るか、仕組みづくりを進めたいと考える。

B委員

- ・新しい計画に取り組む前に、これまでの計画がどうであったかが重要ではないか。進行管理部会で確認していることと思うが、第4次総合計画がどうであったか、総括があってから新しい計画に着手するべきではないか。
- ・資料No.1-6 将来人口の定め方として、定住人口やにぎわい人口、関係人口があげられた。ようやく関係人口という言葉が出てきたが、「関係人口」の定義が進んできたという訳でもない。交流・にぎわい人口の区別が必要かどうかポイントかと思う。

部会長

- ・従来計画の管理についての意見とともに、人口についての質問である。事務局より説明願う。

事務局

- ・第4次総合計画の総括についてであるが、基本計画を前期計画・後期計画と分けており、前期の5年間は総括できており、部会でも用意させていただく。後期は計画期間が完了していないところではあるが、途中経過の仮総括を準備中であり、現在の進捗度合を今後説明させていただきたい。
- ・第4次総合計画において、人口については、定住人口、にぎわい人口と示してきた。
- ・にぎわい人口に替わる指標設定について、方向性は決まっていないので、どういう設定がいいか、意見をいただきたい。

部会長

- ・定義が難しい問題である。近年は関係人口を使うことが多いかと思う。

事務局

- ・定住人口以外では交流人口を設定している自治体が比較的多い。交流人口の設定を、観光入込客数とイコールとしている自治体もかなり多いと認識している。
- ・関係人口は考え方として出てきているが、定義がわかりにくい。他自治体と比較する意味合いでいくと、交流人口は観光入込客数でわかりやすい一方で、関係人口はわかりにくいと事務局は捉えている。定義を踏まえながら検討を進めていきたいと思っている。

B委員

- ・京都スタジアムもあるので、定住人口は減ってもスタジアムによる交流人口で増えているといった方向が汲み取れる考え方で検討いただきたい。観光も含めた括りで考えるのが今回の狙いになるかと思う。

部会長

- ・事務局から何かあるか。

事務局

- ・第4次総合計画における「にぎわい人口」の考え方は、観光入込客数とともに、通勤・通学で来られる方をプラスアルファしているものである。第4次総合計画において、にぎわい人口の定義がわかりにくいという声をいただいております。第5次総合計画に向けては、どういう表現にするか、どういう数字の積み上げにするかは今後検討していきたい。

部会長

- ・次の1月の部会では「人口について（定住、交流）」ということで議論していく。事務局においては、具体的な数字を出していただき、議論ができれば良いと考える。
- ・関係人口の定義は非常に幅が広い。関係人口に含まれるのではないかと、といったものがあれば出してほしい。

B委員

- ・他自治体と比較される際は、関係人口が共通の概念になりつつあるので、あった方がよいのではと思う。

部会長

- ・事務局で相談・整理を願いたい。
- ・他に質問・意見等はないか。

C委員

- ・人口についても市民がわかりやすい表現にすることが大事。亀岡市の取組を市民がイメージでき、市と市民が意気投合してやっていくことが大事だと思う。
- ・第5次総合計画においても、ゾーン別地域振興構想は3つで進めるのか。増やすことも含めて、以降の検討事項と捉えてよろしいか。

部会長

- ・言葉の扱いについては、カタカナ語を使わないような定義の設定とともに、注意しながら検討いただければと思う。

- ・エリアに関しての案はいかがか。

事務局

- ・現在の方向性としては、第4次総合計画における3つのゾーンを踏襲することをベースに検討を進める。

部会長

- ・他の委員からも意見があればお願いしたい。質問・意見等はいかがか。

D委員

- ・第4次総合計画では前期・後期にシンボルプロジェクトがあり、幅広い人から参画いただき、意見をいただけたと思う。第5次総合計画においては、シンボルプロジェクトのようなものを実施予定か。

部会長

- ・昨年、私もシンボルプロジェクトに参加させていただいたが、事務局の案としてはいかがか。

事務局

- ・シンボルプロジェクトは、第4次総合計画の市民協働の取組として、前期・後期で取り組んでおり、現在も「京都スタジアムと京都・亀岡保津川公園を活かしたまちづくり」をテーマに市民に活動いただいているところではあるが、これは第4次総合計画の特徴であると捉えている。
- ・第5次総合計画における10年の計画期間の中で、どのような取組をしていくかは、重点テーマの位置付けとともに検討していきたい。

部会長

- ・重点取組についても、委員からの意見を踏まえながら進めたいと思う。

E委員

- ・観光入込客数は、平成30年で292万人である。スタジアムができることで上積みもできる想定であるが、総合計画の焦点は人口フレームであり、この設定が核になると思う。施策・事業においても、人口フレームが重要になる。資料を提示いただきながら、人口フレームを策定部会において設定するものという理解でよいか。

部会長

- ・人口フレームは、一番予想しやすいものだと捉えている。事務局からいかがか。

事務局

- ・国立社会保障・人口問題研究所の推計も出ているところ。亀岡市においても総合戦略・人口ビジョン策定の中で、出生率の改善とともに、社会動態の改善などによる推計を示しているが、第5次総合計画の人口フレームにおいてどう示すかは検討中である。市としての案が固まり次第、策定部会でもお示ししたい。
- ・人口減少については共通認識であると考えている。

部会長

- ・1月に出てくることになると思うが、それを見ながらの議論になるかと思う。
- ・議事(1)の確認事項としては、資料No.1-3にあるように、基本構想と基本計画がそれぞれ10年の計画期間で出てくると理解していただければと思う。

- ・総合計画自体は目指す都市像が重要で、アンケート結果等も踏まえながら議論いただければと思う。
- ・次の議事の内容について説明願う。市民会議は、新聞でも記事になったところである。

(2) まちづくりアンケート結果について

(3) WEBアンケート結果について

(4) 高校生アンケート結果について

(5) 市民会議からの提言書について

—資料No.2、3、4-1、4-2、5-1、5-2に基づき事務局説明—

部会長

- ・説明いただいたことに、意見や質問等はないか。

B委員

- ・まちづくりアンケートは、サンプリングで調査されているということだが、サンプリングの構成について、資料No.2の2ページでは70歳以上が35.6%、10歳代が1.0%である。ランダムサンプリングが基本であるが、こういう属性の結果でいいのか。来る前に調べたところ、実際の70歳以上の人口割合は21.0%ということで、約15.6%の差である。つまり高齢者の意見が大きく反映されている。また、20歳以下の割合が実際と比べ半分ほどになっている。第4次総合計画の策定時に行ったアンケートも同様にアンケート回答者と実際の年代別構成に差があった。統計の基本は全数調査であるが、そうでない場合はサンプリングをしっかりと行う必要がある。
- ・このアンケート結果が表に出るのは良くない。統計をきちんと勉強して実施すべきである。これでどのように説明するのか。
- ・サンプリングはランダムが基本である。これが説明できるよう準備の必要があると思う。
- ・年代だけではなく、居住地についても、亀岡地区、東部地区の割合が歪んでいると思う。統計の基本になるので、気をつけるようお願いしたい。

部会長

- ・事務局より説明願う。

事務局

- ・3,000人の無作為抽出である。完全な無作為抽出であると、年齢層の偏りが予想されるので、本来の人口構成に近づくよう補正は行っている。その結果として、回答率が高齢者に寄っている。

B委員

- ・補正といっても、差がこれでは人口構成と乖離している。外向けに公開しても理解されないのではないか。

A委員

- ・別の自治体でアンケート調査をやっているが、ほぼ無作為で、人口構成に匹敵するようにアンケートを送付しても、70歳以上の回答が3割という結果になった。
- ・宇治市の小倉地区で全数調査を実施した際、紙ベースのアンケートを配布したが、回収率は3.5割であった。60・70歳代が半分を占め、高齢者は返してくれるが、若い人は返してくれなかった。同様にWEBアンケートも実施し、QRコードで答えを促したが、7,000票配って、350票しか返ってこなかった。内訳としては30・40歳代が多くを占めていた。答える方の自由意志に基づきアンケートを行う場合、や

はり若い人は答えてくれない。選挙の投票率と同様である。

- ・そういう観点とあわせて、ほぼ人口に相当する抽出を行ったとすると、歪んだ抽出ではないと思う。
- ・高齢者が積極的に回答されている中で、結果をどう捉えるかが問題であるが、20～30歳代、もしくは20～40歳代までをひと括りにしてクロス集計を行うなどすれば、若い人の意見も反映させていけると思う。
- ・現在のアンケート集計においては、年齢を10歳区切りでやっているが、今後のアンケート集計として、20～40歳代の次世代を担う人々の考えを把握するとともに、高齢者の回答分布を把握することが必要かと思う。
- ・成果自体は、回答者の回答なのではないか。これをどう使うかが重要かと考える。

部会長

- ・事務局いかがか。

事務局

- ・いただいた意見を踏まえながら、年齢階層の分析等を進めたい。
- ・紙ベースのアンケートを実施すると、高齢者からの回答が高くなる傾向があることから、その補完としてWEBアンケートを実施した。加えて、若年層の転出超過を踏まえ、今後大学進学や就職がある高校生がどのように亀岡市を捉えているのか、把握することも重要と考え、高校生アンケートを実施した。

A委員

- ・資料No.2の45ページ、子育てしやすくなっているかどうかであるが、46ページのクロス集計の表示は良くないのではないか。
- ・30歳代、40歳代においては子どもを育てやすいまちになってきているという評価があるように思うが、回答者全体の割合が高い高齢者の影響を受けた全体結果となっている。
- ・資料No.2の47ページ、「あまりそう思わない」という高齢者の割合が高くなっているが、理由はどうなっているのか。次の問の「障がいのある人が住みやすいまちであると思うか」についても当てはまるが、その理由を聞くのが重要である。冒頭の定住意識とともに、その理由も聞いているので類推するしかないと思う。高齢者が住みにくい理由を深く分析するとともに、階層分析をきめ細かく行くことで、政策にも結びつくと思う。

B委員

- ・年代区分の話であるが、回答結果が高齢者に偏っている旨は冒頭に明記した方が良い。いかにも10歳刻みで配慮しているように受け止められがちかと思う。
- ・第4次計画策定時に行ったアンケートと比較分析も重要。なにがどう変わったか。それだけでもいいので整理されてはどうか。

部会長

- ・アンケートに関する意見が続いているが、これは市民の意見を把握する意味で重要である。様々な回答者の状況を踏まえながら、結果を活用いただければと思う。
- ・亀岡市の場合、高校生アンケートの実施は素晴らしいと思う。他市はどうか知らないが、非常にいいアンケートだと思う。
- ・アンケート内容についても意見をいただければと思う。アンケート結果を踏まえ、亀岡の状況についても意見があればお願いしたい。皆さんの意見が目指す都市像に反映がされるかと思う。

F委員

- ・最近、観光でも地域でも海外の方が増えているように思う。担当する小学校へ行ったところ、中国から

転校してきた児童もいた。お子さん、両親ともに、日本語が全く話せない状況であるが、中国語のサポートも1日2時間しか受けられない。そういう事例が増える中で、日本に定住される方向けに日本語教育、生活に馴染んでいただくためのサポートなどは重要であるし、亀岡市においても考えてほしい。アンケートでもそういった項目があったかと思う。そういう点を知りたい。

部会長

- ・基本計画の内容については部局との相談で書き込んでいくものかと思う。
- ・国際系の内容について、事務局より何かあるか。

事務局

- ・アンケート結果に限らず、庁内で基本計画の作成に向けてプランニングシートを書いていくが、行政主体で進めるだけでなく、市民ニーズを踏まえたプランニングを行っていく。これらを進める中で意見を踏まえて書き上げていきたいと思う。

部会長

- ・国際化の面においては、10年前と比較して、明らかに状況が変わっていると思う。

G委員

- ・資料No.2の45ページ、子どもを生み育てやすいまちであるかについてだが、年代別集計を見ると、子育て支援をもっとも受ける世代と考えられる30歳代は、他の世代に比べ「そういうまちになりつつあると思う」の割合が低くなっており、「あまりそう思わない」が他の年代よりも高くなっている。
- ・支援を受けるであろう世代が、あまり子育てがしやすくなっていると思っていないのが読み取れる。30歳代以降の年代は、自分が子育てをしたときと比べると、今はよくなったと思うが、現状の子育てをしている世代はもっと支援を求めているのが透けて見える。これは高齢者でも同様かと思う。60歳代は「そういうまちになりつつあると思う」と思っているが、本当に受けるべき世代はもっと支援を求めているのではないか。その点は注視願いたい。

部会長

- ・再度アンケートを見てもらいながら、各委員の意見をいただければと思う。いかがか。

C委員

- ・アンケート結果と提言書のリンクはどうなっているか。市民アンケートはこうであったという話は提言書に反映されているのか、それとも違う角度からの意見になっているのか。
- ・アンケートを踏まえてこういう課題があるが、市民会議ではどう考えるかなどといった、その点はリンクしているか。

部会長

- ・事務局いかがか。

事務局

- ・提言書は、具体的な方策の提案である。先ほど申し上げたプランニングシートに落とし込んでいく。反映できる、できないを含め、事務局から提言書を踏まえた施策を書くよう各部局に投げかける。その上でたたき台が出てきて、その時点で部会にお諮りする。それについて意見をいただくものである。

部会長

- ・市民会議を実施する際にアンケート結果は示しているのか。

事務局

- ・提示はしていない。市民会議については、参加いただいた市民の生活実感から来る率直な意見をいただく目的で実施しているものである。

C委員

- ・提言書はアンケートを踏まえているかどうか重要かと思う。アンケートでデータがあるのであれば、提言の中に組み込まれるべきではないか。アンケート結果が反映されているか、策定部会でも見る必要がある。アンケートと提言書がリンクする形で策定を進めるべき。

部会長

- ・今後、同様の機会があれば参考にさせていただけたらと思う。
- ・我々は、事務局からの報告書とともに、市民の率直な意見としてまとめられた提言を踏まえ、今後10年間の計画に対して、事務局に意見を伝えていければと思う。

B委員

- ・各課に割り振って基本計画の素案をつくっていくのであれば、課別あるいは部別として、アンケートをマトリクス別に作ってみてもらおうと、いろいろと発想できるのではないか。いずれにしても各課に下ろすときは、これらをマトリクスで切り裂いて、表みたいなものをつくれないうか。

部会長

- ・若い世代、年齢の高い世代、それらの意見を1つにわかる形にすることで、各部局の事業や施策を考える中で活用いただけるかと思う。

B委員

- ・各課、各部の意見をいただく中で、これらを策定部会へ反映いただければと思う。

部会長

- ・事務局としていかがか。

事務局

- ・その点は想定していなかったが、検討させていただく。

部会長

- ・第5次総合計画では、策定資料があるかと思うが、各報告書の中身がわかりやすいように、加工して出すことも検討いただければと思う。市民が暮らしやすさ、福祉、ダイバーシティなど、どう捉えているかを含めてデータを出す必要があると思う。

A委員

- ・市民会議からキャッチフレーズを出してもらっているが、まさに亀岡だというご意見がうかがえる。
- ・この中で京野菜のまちについて言及されていたものがあつたが、亀岡は世界的に有名な京野菜の聖地であると思っている。市民は感じてないかと思うが、私は京都市に住んでいて、亀岡にいるカリスマ農家の野菜を毎週買いに来ているが、こういうタイトルはすごくいいと思う。
- ・目指す都市像について、全てを入れ込むことは無理だと思うが、これらをアレンジして意見を反映した

とすれば、委員も存在意義を感じていただけるかと思う。

部会長

- ・H委員はいかがか。

H委員

- ・まちづくりアンケートの散布図は大事かと思う。公共交通の不便さなど、当たり前のことであるが、生活に根ざした視点が大事である。重要度が高く、満足度が低い項目を改善していくことが重要であると考え。
- ・亀岡市では、国際交流に注力されていると私は思っているが、市民としては重要視していないことがうかがえる。
- ・資料No.2の3ページであるが、地区の差も見受けられる。たまたまこの地区に高齢者が多かったのか。それとも人口的にこの比率になるのか。

事務局

- ・回答者の居住地の割合についてであるが、実際の地区別割合とほぼ同様の割合である。

部会長

- ・H委員からの指摘は、団体自治・住民自治をどうとらえるかであろう。事務局においても市外や団体に向けての施策の進め方を考えるとともに、住民にとって重要な自治について考えながら計画を策定いただければと思う。

D委員

- ・資料No.4-2 高校生の自由回答のアンケートであるが、「イオン」の文字が多いと思った。イオンの店長と話をする機会があるが、スタジアムも含めて地元との連携に注力したいと言っていた。サンガの試合が開催される日には、1階の空きスペースの活用など、新しい発想で考えていただいている。
- ・高校生が集まれる場所として、イオンに期待を持っているのではないか。また、集まれる場所としては、イオンに限らず、スタジアムの北側に、サンガの試合の日はマルシェが出店されるなど、アンケート回答時の高校生が知り得なかったものもあるので、そういうことも今後伝えても良いと思う。

B委員

- ・スターボックスの話もあったかと思うが。

D委員

- ・決定ではないと捉えている。

部会長

- ・高校生にとって行きやすい居場所は重要かと思う。

B委員

- ・高校生にとって居場所がないという意見は、全体として出ているかと思う。

部会長

- ・それも含め担当部局に伝えていただきたい。13%くらいしか亀岡に残りたくないというのは、あまりに悲しい数字である。

G委員

- ・私は高校生の母であるが、家でもこれらのことについて聞いた。特に亀岡高校の生徒にとってイオンは身近である。放課後の居場所がないことについては、なんとかする必要がある。若い世代は刺激のある場所・楽しい場所を求めよう。映画館は維持管理の問題もあり、二条に映画館があるからと大人が思っても、高校生にとっては、お金がかかるし、亀岡にあったほうが良いと意見もある。
- ・大本教の前の道などを広くしてほしいという声も切実かと思う。高校生は自転車で怖い思いもしている。大人からしたら他愛のないことかもしれないが、高校生なりに真剣に考えての回答である。これからの審議に組み込んでいく必要があると保護者の立場としても考える。

部会長

- ・出た意見を各部局に伝えていただき、回答をいただくという理解でよいか。

事務局

- ・庁内の会議において、審議会で出た意見を伝える。また、市としての意見を整理し、審議会にお示しする。

部会長

- ・各部局への個別意見の伝達とともに、本質的なところも踏まえながら部局と調整願いたい。与えられた時間がきているが、言い残したことなどあればお願いします。
- ・1月に基本構想の素案が示される中で、本会議では委員よりご意見をいただきながら、ともに考える場になるかと思う。
- ・議事事項は終了した。進行を事務局に戻す。

(6) その他

事務局

- ・会議資料で出したアンケート分析については、委員より指摘をいただいたところではあるが、いただいた意見を踏まえて検討を進めたいと思う。
- ・委員よりいただいた様々な意見は庁内に周知していきたいと思う。
- ・今後も頻繁な会議を進める中で、うまく情報共有しながら進めたいと思う。
- ・次回は1月の開催である。よろしくお願いします。

5. 閉 会

以上